

VI-3

ティーム・ティーチングをしよう

(1) ティーム・ティーチングとは

ティーム・ティーチングとは、複数の教師が役割を分担し、協力し合いながら指導計画を立て、指導する方式のことです。

【ティーム・ティーチングの有効性】

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| ① 個々に即した対応／集団運営が可能になる。 | ⑤ 多面的な視点での児童生徒理解が高められる。 |
| ② 集団での多様な活動を用意しやすい。 | ⑥ 互いの発想・方法が刺激となり実践が高められる。 |
| ③ 集団での活動を組みやすい。 | |
| ④ 児童生徒への幅のある対応が可能になる。 | ⑦ 効率的で手厚い事前準備が可能になる。 |

(2) ティーム・ティーチングを効果的に進めるには

ティーム・ティーチングを機能させるためには、授業づくりの各段階（1. 指導計画の立案、2. 必要な教材・教具の準備、3. 指導の実施、4. 評価と反省）において、教師が協同で進めることや、各段階で教師同士が授業に対する十分な共通理解を図ることが必要です。

【ティーム・ティーチングで共通理解する内容】

- ① 児童生徒の個別目標
- ② 授業展開
- ③ 役割分担
- ④ 展開や活動内容、個別目標を考えたティーム・ティーチングの指導・支援内容の確認
- ⑤ 評価（児童生徒の姿、教師の手立て）



ティーム・ティーチングによる授業には、次のような効果があるとともに、不適切に運用された場合、陥りやすい問題点が指摘されています。

効果	① 児童生徒の実態を、多くの視点から理解することができる。 ② 個々の教師の専門性や特性を生かし創造的な授業を実施することができる。 ③ 学習グループを多様に編制することができ、一人一人の能力や特性に応じた指導が可能になる。 など
陥りやすい問題点	① 教師が他者に依存的になり、児童生徒への働きかけが滞る。 ② サブとなる教師の働きかけが児童生徒の補助や管理だけに終始する。 ③ その場限りの対応となる。 など

これらの問題に陥らないようにするためには、事前の打合せの時間を取り、授業や児童生徒についての意思疎通、意見交換を通じて、共通理解を図っておくことが重要です。



(3) ティーム・ティーチングの指導のパターン

授業においては、チーフとなる教師が授業をリードし、サブとなる教師がチーフとなる教師の指導を補充するなどの役割を担うことが必要です。

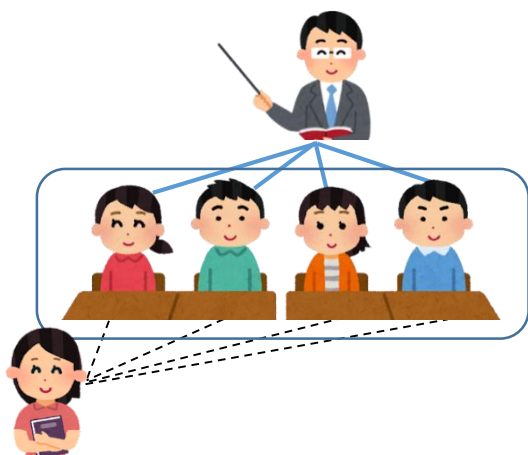
【チーフの役割】

挨拶、進行、
学習説明、合図、
手本を示す
など



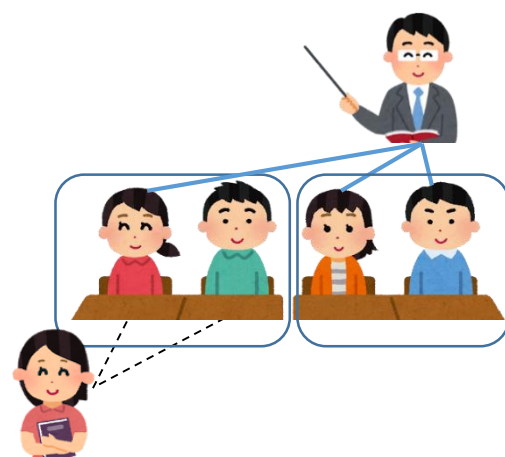
【サブの役割】

学習の援助
意欲付け、教材・教具の準備、
機器の操作、雰囲気の高上げ
など



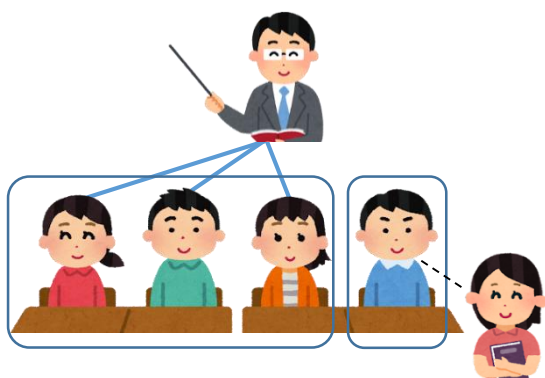
○ 全体支援型

- ・チーフが全体を進める。サブは集団全体を見ながら、支援が必要な児童生徒を支援する。
- ・サブは、学習課題の理解を助ける、活動を補助するなど、課題や場面に応じた支援を行う。



○ 小グループ支援型

- ・チーフが授業を進め、サブは支援が必要な複数の児童生徒の支援を担当する。
- ・全体の授業のねらいに沿って、同じ学習課題でなく、特別な課題や実態に応じた課題を設けて学習する。



○ 個別支援型

- ・チーフが全体を進める。サブは、特定の児童生徒の支援を担当する。
- ・全体の授業のねらいに沿って、担当の児童生徒が同じ学習活動を行えるよう支援する。